

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
カウンセリング概論 Introduction to Counseling		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(英語教諭、栄養教諭の教職課程科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
教職関連科目 心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
小竹仁美	講義棟3階	木・金 (授業時間と学生相談時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
<p>カウンセリングはクライアントが一人では解決できないと感じている問題について、信頼できる人間関係を築き、クライアント自身がそれを解決できるように援助する過程であるといえる。この科目では、①信頼関係の形成、②カウンセリングの基礎理論、③カウンセリングの基礎的技術、を主たる授業内容とし、カウンセリングの基礎力の習得を図る。</p>				
授業の目標				
<p>①カウンセリングの事例を通して、信頼関係の形成の仕方を身につけることができるようにする。 ②主要なカウンセリング理論の歴史と考え方を学び、心理的問題を各理論を使ってとらえることができるようにする。 ③カウンセリングのスキルを体験的に学び、使うことができるようにする。</p>				
授業の方法				
講義形式とロールプレイなどの参加型形式。				
学習の成果 (学習成果)				
<p>①日常的な人間関係とカウンセリングにおける人間関係は異なるという意識をもち、他者の話を公平に誠実に聴く姿勢を身につけることができる。②話し手の話す内容を言語的・非言語的に聴き、話した内容を受け止める態度を身につけることができる。③話し手、聴き手、観察者としてロールプレイに参加し、基本的なカウンセリングスキルを身につけることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (授業概要や目標の説明、成績評価と受講上のルールの説明) カウンセリングとは 学校におけるカウンセリングの必要性			
第2回目	メンタルヘルスの基礎知識 (思春期頃まで)			
第3回目	メンタルヘルスの基礎知識 (青年期から成人期まで)			
第4回目	学校カウンセリングの実際 (発達障害、不登校、いじめ)			
第5回目	学校カウンセリングの実際 (自傷・自殺、虐待)			
第6回目	他者理解の基礎、共感的理解と傾聴			

第7回目	カウンセリングの方法(アサーション、認知行動療法)	
第8回目	カウンセリングの方法(投影法、箱庭療法①)	
第9回目	カウンセリングの方法(箱庭療法②)	
第10回目	カウンセリングの方法(ストレスマネジメント、臨床動作法)	
第11回目	カウンセリングの方法(グループエンカウンター)	
第12回目	カウンセリングの方法(エゴグラム、交流分析)	
第13回目	学内連携	
第14回目	学外連携(児童相談所、教育相談所、医療機関)	
第15回目	まとめ(講義内容の整理)	
事前・事後学習	教科書を事前に通読し、事後に読み直す)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	ロールプレイや話し合いに真剣に取り組み、活発に意見を発表するとともに、他の参加者から意見を引き出したり聴いたりする。
レポート	30%	授業内容に基づいたテーマで、内容構成がしっかりしていて、学習効果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	正誤問題および説明問題を実施する。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
教科書 ①津川律子・山口義枝・北村世都 『教育相談』(弘文堂)、 ②日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』(図書文化)		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験 職種：臨床心理士(心理判定員)、職歴：通算25年 予習・復習に取り組む。		